



一般社団法人

# 日本小児看護学会

Japanese Society of Child Health Nursing

## News Letter

### 新理事会の紹介

#### 理事長挨拶

今期、一般社団法人日本小児看護学会理事長を拝命しました江本リナです。歴史ある学会を引き継ぐこととなり、身の引き締まる思いでございます。

現代社会では、超高齢少子化、大規模自然災害や感染症のパンデミック、海外で多発する紛争、児童虐待、SNSを介した犯罪など、こどもや家族を取り巻く課題がますます多様になっています。さらに、生成AIの急速な広がりにより、新しい技術や社会の在り方について考える場面も増え、2025年にはその活用に向けた法律やルールづくりが進められています。社会全体がデジタル化に向かう中、生成AIの利用は低年齢層にも広がり、学校の宿題にもAIが使われる時代になりました。誤った情報に振り回されることや、倫理が問われることなど、私自身がこどもの頃には想像もしなかった変化が次々と起こっています。

こどもと家族はこのような社会の中で生きており、心身の健やかさが揺らぎやすい状況にもありますが、それゆえに、こどもに笑顔を灯すことができるよう、医療・福祉・行政・教育など幅広い

専門職が集う本学会の役割は、これまで以上に大きいものと感じております。

本学会として取り組むべき課題には、こどもと家族の健やかな生活を支える看護の開発、実践者・研究者・教育者がつながり協働が促されることや、会員のみなさまにとって使いやすい運営体制の整備などがあります。また、生成AIと学術領域の動向にもアンテナを張り、時代の変化に合わせた学会活動を進め、小児看護の質向上につなげていきたいと考えております。

会員のみなさまが日々取り組まれている活動や研究を積極的にご紹介することは大切な役割の一つです。

次世代を担うこどもたちを支える看護の発展に寄与できますよう、これからもみなさまの変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

● 一般社団法人日本小児看護学会 理事長 江本 リナ



新理事会メンバー同 (2025年より)

## 総務委員会

- 委員長：江本 リナ
- 委員：小川 純子(副理事長)、西田 志穂(庶務理事)、植木 慎悟(会計理事)、込山 洋美、見戸 祥能、山内 朋子、鈴木 健太、高尾 憲司、松中 枝理子

総務委員会は、他の常設委員会と協力しながら、学会の基盤を支える「縁の下の力持ち」としての役割を担っています。主な業務は、庶務や会計(予算・決算)のほか、会員の入退会手続き、外部機関との調整や連携、規程の整備、理事会や総会などの会議運営、さらに学会事務局との連携など、多岐にわたります。

学会の成果を社会にお届けし、健全で安心できる学会運営につながるよう、これからも努めてまいります。学会へのご意見やお問い合わせは、学会HPに掲載されている「一般社団法人日本小児看護学会事務局((株)毎日学術フォーラム内)」までお気軽にお寄せください。

## 編集委員会

- 委員長：小川 純子
- 委員：伊藤 奈津子、中水 流彩、杉浦 太一、染谷 奈々子、田久保 由美子、永吉 美智枝、名古屋 祐子、仁尾 かおり、西垣 佳織、松澤 明美、宗村 弥生、山崎 あけみ

編集委員会では、オンラインによる投稿、査読のシステムを使った、日本小児看護学会誌の論文受付、査読依頼、採否決定、掲載論文の編集を担っています。採択された論文は、全文を年3回(3月・7月・11月)J-STAGEで公開しています。併せて、当該年に公

開された論文は冊子体の学会誌として発行しています。投稿論文は、著者、専任査読者、編集委員のよい協力のもとで掲載に至ります。小児看護の発展に貢献する質の高い多くの論文を社会へ発信できるように努めてまいります。

## 診療報酬検討委員会

- 委員長：萩原 綾子
- 委員：石川 美夏子、黒田 光恵、佐藤 文香、茂本 咲子、鈴木 千琴、関根 弘子、福地 麻貴子、水野 芳子、山本 光映

診療報酬検討委員会は、小児看護および小児医療に関して診療報酬等の経済的保障の面から、看護の質を向上していくための提案を行います。

診療報酬は2年ごとに改定されるので、現状の課題を文献やデータを用いて、根拠をもって検討します。それを要望書や提案書の形で看護系学会等社会保険連合(看保連)を通じて厚生労働省へ提出、発信します。また、診療報酬改定が発表されると同時にその

評価を行い、次の改定に向けた活動に取り組みます。実績としては、多様な状況にあるすべての子どもへの退院支援と在宅移行への推進、養育困難な親子への育児支援・虐待対応、小児病棟における療養環境の改善など、小児看護および小児医療の質を向上するためのシステム作りを、診療報酬の面から支える事に取り組んできました。今後も現場の声を届け、政策提言につながるような取り組みを行っていきます。

## 小児看護政策委員会

- 委員長：市原 真穂
- 委員：荒木 暁子、大島 誠、金丸 友、熊谷 智子、西田 みゆき、平林 優子、藤田 優一

小児看護政策委員会は、1) 政策に関する活動、2) 健やか親子21(第2次)推進に関する活動、3) 日本医療安全調査機構への参加団体としての活動、などを行います。政策に関する活動では、子どもや家族のニーズや実態を把握し、社会の動向を反映した提言を行います。健やか親子21(第2次)推進事業として、「育児支援等(テーマ別グループ2)」「調査研究やカウンセリング体制の充実・ガ

イドラインの作成等(テーマ別グループ4)」の活動に取り組んでいます。活動内容については、会員の皆様に情報提供していきます。また、日本医療安全調査機構からの情報提供や事故調査事業への協力などを行っています。

活動内容については、ホームページにあります「学会成果物・政策提言」「お知らせ」よりご覧いただけます。

## 国際交流委員会

- 委員長：富岡 晶子
- 委員：本田 順子、金泉 志保美、薬師神 裕子、岡田 弘美、酒井 佳織

国際交流委員会では、諸外国の学会や関連団体との交流および国内外における国際的な活動を通じて、小児看護の実践・教育・研究の発展と向上に寄与することを目指しています。

本学会は、Asia Pacific Paediatric Nurses Association (APPNA) のメンバーとして、アジア諸国の小児看護師との交流を積極的に行っています。また、世界看護科学学会(WANS)などを通じた国際的な交流活動も推進しています。

会員の皆様には、国際学会に関する情報をタイムリーにお届けするとともに、国際学会での発表や英語論文執筆のサポート、海外における看護の現状紹介などを企画しています。さらに、国内における外国籍の方々への支援についても検討を進めており、今後の活動の充実を図ってまいります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



## 学術・研究推進委員会

学術・研究推進委員会は、小児看護分野における学術と研究のさらなる発展と向上を目指し、多岐にわたる支援活動を展開しています。具体的には、会員の皆様を対象とした小児看護の実践・教育に関する調査・研究への助成を通じて研究活動を後押しし、また、学会誌に掲載された優れた論文の中から研究奨励賞を選考することで、質の高い研究を皆様に発信しています。さらに、学術集会運営の支援を行うことで、研究成果の発表や情報交換の場

- 委員長：川名 るり
- 委員：内 正子、長田 暁子、二宮 啓子、古谷 佳由理、松岡 真里、西名 諒平、鈴木 翼

を充実させるとともに、その他学術・研究推進に関わる業務全般を担っております。これらの活動を通じて、こどもたちの健康増進、疾病予防、そして健康回復に貢献できるよう尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

各種研究助成等の公募要領は、学会ホームページやニュースレターで詳しくご確認いただけます。ご応募を心よりお待ちしております。

## 広報委員会

広報委員会は、学会活動や小児看護に関する様々な情報を会員の方々と共有し、社会に向けて発信することを目的に活動しています。具体的には、ホームページの更新、ニュースレターの年2回の発行、メールマガジンを通して、学会誌に掲載される論文のJ-STAGE公開のお知らせ、学術集会・地方会・研修会等の開催のご案内、研究助成金公募のご案内、理事会や各委員会の活動や成

- 委員長：渡邊 輝子
- 委員：田中 美央、新家 一輝、西垣 佳織、鈴木 千琴

果物等のご報告を行ったりしています。また、学会リーフレット（日本語版・英語版）を活用して、より多くの方に学会について知っていただけるように広報活動に取り組んでいます。これらの活動が、子どもと家族、そして小児看護に対する社会の関心や理解につながることを願っています。皆様、どうぞよろしくお願い致します。

## 倫理委員会

倫理委員会は、こどもたちが生活する家庭、病院、施設など、あらゆる場において、

『こどもの生活が最大限に守られ、安心して過ごせること』

『こどもが本来持つ力を最大限に発揮できるように支援されること』

『こどもにとっての最善の利益が追求されること』

をミッションとして活動しています。

今期の委員会でも引き続き、

- ① 看護職がこどもの声をしっかりと受け止め、そこに倫理的課題があるのかないのかを見極めることのできる「倫理的感受性」を高めること
- ② 看護職が「こどもの最善の利益」のためのアドボケートとしての役割を自覚すること

- 委員長：平田 美佳
- 委員：井出 由美、入江 亘、笹木 忍、仁宮 真紀、古橋 知子、三輪 富士代、望月 浩江、森 多毅

③ 協働する多職種との「話し合い」の場を設け、「こどもを主語」にし、「こどものための発言」ができること

④ 倫理実践が難しい状況でも、自分のおかれた立場で今できることから始めていくこと

上記の達成をめざし、研修会の企画・運営、研究活動等を行ってまいります。

倫理委員会の成果物である『子どもを対象とする看護研究に関する倫理指針』『子どものエンドオブライフケア指針』『日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針』の実践への活用をめざし、こどもに関わる看護師のみならず、あらゆる専門職、社会に向けて発信していきます。会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

## 災害対策委員会

- 委員長：今野 美紀
- 委員：三上 千佳子、横山 由美、佐藤 奈保、草柳 浩子、田崎 あゆみ、三宅 一代、松森 直美、松本 祐佳里、菅原 淳、田畑 久江、浅利 剛史

災害対策委員会は東日本大震災への支援活動を機に設置され、2013年度より常設の委員会となりました。委員会の主な活動内容は、①災害対策マニュアル改訂版に基づいたネットワークの充実、②災害への意識向上のための研修会活動、③学術集会におけるテーマセッション等の実施、④災害に遭った子どもや家族のケアに関する情報の収集と発信です。①では、各地区リーダーを中心に地区評議員・会員とネットワークを構築して、災害時には被災地の情報収集と情報提供、平常時にはシミュレーション等に取り組ん

でいます。②の研修会活動では、開催地区の偏りに考慮しつつ、災害対策に関わる研修会を毎年実施しています。関連学会・関係機関とも継続的に連携を取り、学会員の中にいる災害対策連携協力会員の力を得ながら、災害時の子ども支援について引き続き取り組んでいきます。

学会としてできることは微力で限界もありますが、災害時の子どもや家族への支援をこれからも探求していきたいと思っておりますので、会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

## 教育委員会

教育委員会は、小児看護の基礎教育、および、継続教育の課題に関する事項を中心に活動しています。

具体的には、人材養成スキルアップ研修(E-learning、集合研修)

●委員長：河俣 あゆみ

●委員：田村 佳士枝、原 朱美、森藤 香奈子、山崎 麻朱、市江 和子、村端 真由美、橋本 侑美

の管理と企画・運営、若手教員に対する支援、その他、医療的ケア研修セミナー(日本小児神経学会)を共催しています。研修等のお知らせは随時更新しています。皆さまの参加をお待ちしています。

## 選挙管理委員会

選挙管理委員会は、学会を運営していく上で欠かせない評議員、理事・監事を公正かつ中立な立場で選出する役割を担っています。

評議員選挙は、4年に1度、地区ごとの会員の中から60名程度選出されます。さらにその評議員の中で選挙が行われ、理事・監事が選ばれます。そして、理事長は、選出された理事の中から選出

●委員長：西田 みゆき

●委員：小野 智美、黒田 光恵、関森 みゆき、田中 美央、林 亮

されることとなります。理事の任期は2年なので、評議員の中から2年に1度理事選挙が行われるのです。

次期、評議員選挙、理事・監事選挙は2028年に行われます。会員の皆様の1票が小児看護の発展に寄与しますので、選挙への関心と投票へのご協力をお願い申し上げます。

## 研究奨励賞受賞者より

● 埼玉県立大学保健医療福祉学部 看護学科 望月 浩江

この度、論文「小児医療施設の看護過程にセルフケア理論を取り入れた教育介入の質的な効果検証」に、研究奨励賞をいただきましてありがとうございます。この研究にご参加いただいた皆様、共同研究として共に教育介入を行っていただきました埼玉県立小児医療センターの歴代の看護部の皆様、査読、論文掲載、選考に関わっていただきましたすべての方々に心より感謝申し上げます。

この研究は、施設の看護にオレムセルフケア不足理論を導入するために、2013年から9年間、埼玉県立小児医療センターの看護部の皆様と埼玉県立大学の教員が合同プロジェクトとして教育介入を行った成果を質的に明らかにした研究です。

教育介入は、研究対象者である看護師の認識の変容を促すための教育介入と、組織への教育介入を並行して行いました。看護師の認識の変容を促すための教育介入では、研究対象者の方々と大学教員が、子どものセルフケア・親のケア能力を引き出す視点での事例検討を行い、学びや認識の変化、部署での実践の変化についてリフレクションを行いました。組織への教育介入としては、子どものセルフケア・親のケア能力を支援する標準看護計画や記録監査の導入などシステムの面からの介入を行いました。

事例検討では、当初は大学教員から子どものセルフケア・親のケア能力を引き出す視点でのアセスメントの思考方法を研究対象者の方に伝え、看護の方向性を共に検討しておりましたが、事例検討とリフレクションを継続することで、研究対象者の方々がファシリテーターとして自身の部署で事例検討を推進し、部署での事例検討を重ねることで、実際の看護計画が修正され、セルフケアを支援するための看護として子どもと親に実践されていきました。そして看護の効果として、子どものセルフケア・親のケア能力が向上したことが研究対象者の方のリフレクションから明らかになりました。部署で検討される事例についても、だんだんと困難な状況の子ども事例検討となり、事例検

討で検討した看護が実践に反映され、組織としての看護の質の向上にも繋がったことが明らかになりました。

事例検討とリフレクションを重ねていくことで、研究対象者の方々のアセスメント能力やセルフケアを支援するための看護を考える力が素晴らしく向上し、それぞれの部署での事例検討やそれに基づく看護実践を牽引されていきました。そして、それと比例するように、子どものセルフケア能力、親のケア能力が向上し、看護の効果として確認することができました。

この研究は、比較群をおかずに効果検証を行っていることより、そのまま一般化することには限界がありますが、組織の看護への看護理論の導入、看護の質向上のために、ご参考にしていただければ幸いです。今後も子どものセルフケア、親のケア能力を支援する看護の発展に、微力ではございますが貢献できるよう精進して参りたいと思います。







## 「リレートーク」 ● 田中 美央さん (新潟大学小児看護准教授)

### 自己紹介

岩手県で生まれ育ち、聖路加看護大学進学を機に上京しました。大学卒業後は、東京都内の病院で、看護師としての臨床経験を経て大学院での学びを積みました。小児看護の教育の道に進み、2009年から新潟県で仕事をしています。こちらには、新潟小児看護研究会があり、そこで出会った皆様に助けていただきながら過ごしています。

### 看護師になったきっかけ

高校時代、江川晴さんの「小児病棟」や「いのちの現場から」などの本を読み、リアリティ溢れる現状や矛盾、それに伴う患者さんへの影響などを知り、とても考えさせられました。看護は色々な課題に取り組む面白い分野だ、と感じたことが看護師になったきっかけです。いざ、学び始めると、机上の学びはモチベーションが上がらず苦しみましたが、実習での実践の中の創意工夫と、患者さんとともにケアを創り出す面白さに魅了され、看護師としての就職を選びました。

また、母が「命を救ってくれた看護婦さん」の話を繰り返していたことも影響したかもしれません。戦後、満州から引き揚げてくる際に、乳児と母親に栄養を与え、動けなくなった人たちを看護し、歩ける人は先に行くように励ましてくれた看護婦の方がいたそうです。その方が同窓の大先輩で、入学後は歴史の中で看護が果たしてきた役割にも感銘を受けました。

### 新人時代の思い出

1年目は希望がかなわず病棟ではなく、産婦人科外来の配属となりました。しかし、吉川久美子師長率いる外来部門は、「病院の顔」としてスマートに何事にも対処し、新しい取り組みをはじめ意欲溢れる部署でした。新人は他部署での看護技術習得や、数か月にわたる病棟勤務の機会をいただき、多くの部署で学びを重ねることができました。病棟と外来では、同じ患者さんでも顔つきや医療者へのかかわり方も違いました。外来では、日常の生活者が、医療につながってくる、という点を身に染みて学び、貴重な経験となりました。女性の妊娠経過をずっと外来で見守り、子どもにハンディがあるこ

とが分かった方々やその子どもたちに、その先も関わりたいと考え、新生児集中治療室で勤務し、その先も関わりたいと思い、小児病棟で経験を積みました。とにかく子どもの生きる力はすごい、と感じました。



### 小児看護の魅力

子どもたちの、「発する力」と「変化する力」に接することができる点です。子どもは大人と異なった方法で伝えてきますが、その世界に深くひたっていくことで、その笑顔や反応の意図を理解し、魅せられ、私自身も元気をもらえます。子どもたちは、全ての感覚で世界を感じ取っており、あらゆる感覚を鋭くして自分から発信し続けています。この個性が魅力です。また、将来にわたって成長発達、変化し続ける子どもと家族の、今必要な看護を一緒に考えていくことに魅力を感じます。地域の中で育つ子どもたちを支えるネットワークづくりも地域によって異なる方法で進めていくことが大切と感じています。

### ストレス解消法

水泳やスキー、キャンプなど外に出て気分転換をしています。最近は、子どもとなわとびにチャレンジしています。新潟はお酒がおいしいので、飲みすぎに注意しながら楽しんでいます。

### 後輩たちに期待すること

子どもと親の声を聴き尊重することと、答えが見えにくい課題に悩むことを恐れずに取り組んでほしいと思います。社会の変化に応じて、今後も医療体制や小児看護も変化し続けています。今後ますます、他の分野の人との交流や、多様な仲間とつながることが求められると思います。しなやかに様々な人と連携し、自分が大切と考えることを発信し続けてほしいと思います。

### バトンを受けて欲しい人

大学院の同級生 関森みゆきさん

## 小児看護政策委員会 連続テーマセッション報告

### テーマ：小児看護領域における高度実践看護の実装へ

#### — PEPPAモデルを活用した取り組みの共有と今後の展開 —

● 政策委員会 市原 真穂

小児看護政策委員会では、小児看護領域における高度実践を検討するにあたり、「地域に拡がることもと家族のニーズに応じる高度実践看護」に焦点を当て、活動をすすめてまいりました。これらの成果は、テーマセッションとして第35回学会集を含め4回にわたり発表・共有し、参加者とのディスカッションを通して方向性を示してきました。

第32回学会集では、急性期医療機関および地域・在宅で実践するスタッフ看護師、管理者、小児看護CNS、NP教育課程修了者などへのヒアリングを行い、ニーズの捉え方および実践内容の共通性・相違性を検討しました。これらを踏まえ、海外文献レビューを通して高度実践看護師（APN）の実践、役割を整理しました。第33回では、専門看護師によるPEPPAモデル<sup>1)</sup>の活用事例方策等を紹介し、第34回ではPEPPAモデルを用いた実装方略について、日本で同モデルを紹介した野々内氏にご講演をいただき、地域での活動を計画中的CNSに対して貴重な助言をいただきました。

今回の第35回学会集（仙台）では、これまでの4年間を総括し、「小児看護領域における高度実践看護の実装」と題して、実践報告をもとにAPNが組織や地域に根づき、成果を創出するための方策を検討しました。

聖隷浜松病院の小児看護専門看護師・鈴木さと美氏からは、先天性心疾患のあるこどもの成人移行支援を対象とした取り組みが紹介されました。PEPPAモデルを活用し、データに基づ

くロジックモデル（写真）を構築しながら、チーム間の連携や支援体制の整備を進めた実践でした。浜松市医療的ケア児等相談支援センターの小児看護専門看護師・高真喜氏からは、在宅で生活する幼児期の医療的ケア児への支援について、多職種で連携・協働する際に生じやすい異なる価値観によるジレンマが示され、それを乗り越えた工夫や知恵が語られました。両者の報告は、PEPPAモデルに基づいた目的や成果の明確化により、APNがこどもと家族のニーズに応じる調整機能を発揮し、ケアシステムを創出する姿を具体的に示していました。

この4年間の取り組みを通して見えてきたのは、高度実践看護の役割の一つに、現場における新たなニーズを捉え、それを課題として可視化し、ケア提供の仕組みを創出して体制に組み込むことで、解決へと導く実践があるということです。PEPPAモデルは、このような社会的課題を発見し、関係者と共有することで変化を生み出す実践プロセスの可視化ツールとして有効であることが確認されました。

本委員会では、今後もこどもと家族のニーズの拡がりに応じる高度実践看護を明確にし、実践・教育・制度のあり方の各側面からの検討をすすめてまいります。

1) 野々内 美加. 高度実践看護師の役割開発と活動領域の拡大を目指して—「PEPPAフレームワーク」活用のすすめ、看護管理, 2019; 29(2): 134-140.

### STEP 3・4 ロジックモデル構築

#### 【短期・中期的成果】

自立看護相談 5件以上／年  
実施のためのマニュアル作成

#### 【長期的成果】

対象患者がドロップアウトしない

#### 【活動】

中1・中2・中3で自立支援の看護相談を実施する  
患者に移行期支援シート、TRAQを記入してもらう  
家族へ自立の必要性について説明する

#### 【目標】

フォンタン術後・ファロー四徴症患者の  
自立準備性が高められる

ロジックモデルの例



# 病気や障がいをもつ子どもたちの生活、守られていますか？

## ～こどもの権利を守る臨床実践に関するオンライン実態調査の速報～

● 倫理委員会委員長 平田 美佳

倫理委員会では、2024年度から病気や障がいをもつ子どもたちの「生活」に着目し、こどもの権利の視点からその生活を守る臨床実践について検討しています。

日常的に使用している「生活」という用語の意味することはどのようなことでしょうか。日本看護科学学会看護学術用語検討委員会は、「生活とは、人間の生存そのものであり、各個人の主体的営みである」と定義しています。そしてこの営みには、生命維持に直結する呼吸・循環・体温や、生活リズムを作り出す運動・休息・食事・排泄・清潔・更衣、社会的活動としての遊びや学習を含む労働などが内包されており、その生活は、その人の価値観、習慣、考え方、暮らし方、生き方などによって形成されるといわれています。さらに、「生活にはその人にとっての意味があり、人は自分がおかれている状況に関与しながらその意味を見出している」と述べられています。このことから、子どもたちの生活を守るとは、子どもたちの生存そのものを守り、子どもたちを全人的に支えることと言え、私たち小児看護に携わるものの使命です。

本委員会は「病気や障がいをもつ子どもたちの生活において、こどもの権利がどのように守られたり、守られていなかったりするのだろうか？」という問いを探求するために、全国の病院や施設で小児看護実践に携わる看護師を対象に実態調査を行いました。データ収集項目は「病院の子ども憲章(EACH, 2022改訂)」「医療における子ども憲章(日本小児科学会, 2022)」に基づき、委員の臨床経験も併せて検討しました。病気や障がいをもつこどもの生活においてこどもの権利が守られている臨床実践をこどもの生活に落とし込み、看護師の行動レベルで「食べる」「排せつ」「清潔」「遊びと学習」「活動と休息」「家族や仲間とのかかわり」の6つの側面の具体的実践内容を抽出しました。そして、各々について対象者にどの程度実践しているかについて問い、回答を得ました。回答数は523名で、多くの看護職の方にご協力いただきました。

ここで、研究結果速報を少しご紹介します。「医療における子ども憲章」の11項目についてそれらの権利を守る実践がどの程度行っているかについての回答を見ると、すべての項目において9割が実施しているという結果が得られました。そのうち、実践の程度が最も高かった上位3つと下位3つは下記の表に示した通りでした。現場でのこどもの権利を守る実践は、課題はありながらも少しずつ浸透してきている実情が読みとれました。

【表 実践している割合が上位の3項目】

差別されず、こころや体を傷つけられない権利
人として大切にされ、自分らしく生きる権利
自分のことを勝手に誰かに言われない権利

【表 実践している割合が下位の3項目】

今だけではなく将来も続けて医療やケアを受ける権利
必要なことを教えらる権利
病院などで親や大切な人と一緒にいる権利

同様のテーマで、第35回学術集会にてテーマセッションを行いました。その中での参加者とのグループワークの内容と今回の研究結果を照らしてみても、未だにこどもの権利を守ることへの課題はありますが、こどもの権利条約が批准された30年前と比較するとこどもの権利は着実に守られてきていること、守ろうという看護職が大多数であることは明らかです。それでもなお残る課題、影響要因は何かについて、これからデータ解析をしていきたいと思います。現在、その結果を目下分析中ですが、まず最初に質問紙調査の記述統計とこどもの権利を守るために行われている工夫の記述内容の一部を、報告書という形で学会HPに紹介していく予定です。会員の皆様の施設の実態と比較するとともに、各々の施設の課題に取り組み、現場をよりよく変革する一助となればと考えています。

2026年2月7日(土)に、倫理委員会企画の研修会を開催予定です。テーマは「こどもが“ありのまま”でいられる生活をまもる～ともにつくる病院の風土～」です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

### 引用サイト

日本看護科学学会看護学術用語検討委員会：看護学を構成する重要な用語集「生活」, <https://www.jans.or.jp/glossary/life/> (2025年10月26日アクセス)

日本小児看護学会 倫理委員会 主催 研修会

## こどもが“ありのまま”で いられる生活をまもる ～ともにつくる病院の風土～



**2026年  
2月7日(土)**  
13:00～16:00

開催	Zoomによるオンライン方式 (ライブ配信のみ)
参加費	会員 無料 非会員 1,000 円
対象	こどものケアに携わる看護職、 専門職の方

講演 1 13:15～14:20  
**患者さんの生活をまもる組織風土づくり**  
がん研究会有明病院 がん看護専門看護師 濱口 恵子 先生

講演 2 14:30～15:35  
**コロナ禍を経て今...こどもの生活、まもられていますか？  
～こどもの権利と感染対策との両立～**  
宮城県立こども病院 副看護部長 感染管理認定看護師 森谷 恵子 先生

お問い合わせ 日本小児看護学会 倫理委員会  
(平田、望月、森、入江)  
E-Mail: [ethics@jschn.or.jp](mailto:ethics@jschn.or.jp)

お申し込みはこちら

当日12時までに申し込み可能です。  
Peatix社の管理システムを利用しています。  
お申し込みにはPeatixへのご登録が必要です。



## テーマセッション診療報酬検討委員会企画

### 「医療的ケア児の呼吸ケアを診療報酬につなげよう」を開催して

● 診療報酬検討委員会 萩原 綾子

診療報酬検討委員会では、2年ごとの診療報酬改定に向け、小児看護の質の向上に寄与するための要望・提案をし、子どもに関わるさまざまな診療報酬の改定に貢献する活動を行っています。2026年(令和8年度)の改定に向け、いくつかの要望書を提出しました。その一つに、呼吸ケアチームが入院中の在宅人工呼吸器を使用することもでも加算が取れるよう要件緩和の要望をしました。

第35回学術集会のテーマセッションでは「医療的ケア児の呼吸ケアを診療報酬につなげよう」というテーマで、在宅人工呼吸器を使用することもへの呼吸ケアチームでの介入の実際や呼吸ケアチーム加算が難しい課題を共有し、皆様と意見交換を行いました。

診療報酬検討委員会の萩原綾子、河俣あゆみが座長を担い、話題提供者として、小児在宅医療医として長年取り組まれている田中総一郎氏(あおぞら診療所ほっこり仙台)に呼吸ケアの基本的な知識や実際についてお話いただき、看護の立場から後藤裕美氏(順天堂大学医学部附属練馬病院)、佐々木律子氏(千葉リハビリテーションセンター)から各御施設で取り組まれていることをお話いただきました。

当日の参加者は120名を超え、活発な議論を行うことができました。アンケートの回答は10名と回収率が低く、回答者は全員が看護師、所属は地域医療支援病院や医療的ケア児支援センターなどでした。具体的には呼吸ケアについて困っていることでは、診療報酬に算定されないことで呼吸管理に関するスキルの向上が難しいなどの意見がありました。

テーマセッションで配布した資料の一部をホームページに掲載させていただきました。左記QRコードをご覧ください。



ご参照いただき、こどものより良いケアにお役立てください。

診療報酬検討委員会では、毎年の学術集会の場で診療報酬改定に関する取り組みがより身近に感じられるような内容について、テーマセッションを企画しています。皆様の臨床での気づきが、将来の診療報酬につながることも多く、ぜひ皆様の声をお聞かせいただきたいと思います。これからもどうぞ一緒に取り組んでください。よろしくお願いします。

日本小児看護学会 診療報酬検討委員会・教育委員会共同企画

### 令和7年度 成人移行期支援 講演会

＼ 小児科・成人診療科どちらの診療に関わる方もご参加ください ＼

**参加費無料**

2026年  
**2月21日(土)**  
13時-16時 オンライン

対象：小児医療・成人医療で  
小児期発症慢性疾患患者の支援に  
関わる専門職 どなたでもどうぞ

内容：  
◆ 成人移行期支援に関する基礎知識  
◆ 看護師としての取り組み  
水野芳子先生 小児看護専門看護師  
◆ 医師としての取り組み(小児医療側)  
神奈川県立こども医療センター 柳貞光先生  
◆ 医師としての取り組み(成人医療側)  
北里大学医学部 小坂橋俊美先生  
◆ グループにわかれて情報交換

【問い合わせ先】  
日本小児看護学会 学会事務局  
E-mail: [maf-jschn@mynavi.jp](mailto:maf-jschn@mynavi.jp)

▶ 申し込みはこちらから  
後日Zoomアドレスを  
送ります  
締め切り 2026.2.13

## 第35回学術集会のご報告

2025年7月5日(土)、6日(日)に、第35回学術集会が仙台市中小企業活性化センター及びTKPガーデンシティPREMIUM仙台西口にて開催されました。学術集会長は、東北大学大学院医学研究科保健学専攻家族支援看護学講座小児看護学分野教授の塩飽仁先生が務められ、「“未来創世”—子どもと家族の今と未来を支える看護の探求—」をテーマに、多岐の分野にわたる教育講演、24のテーマセッション、75の一般演題発表がありました。1,400名が参加し、真夏の仙台で各セッションでは熱い議論が繰り広げられ、盛況のうちに終了しました。



日本小児看護学会第36回学術集会  
The 36th Annual Conference of Japanese Society of Child Health Nursing

# 子どもの力を育むチームの Harmony

2026年7月4日(土)～7月5日(日)

静岡県静岡市  
at 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

演題募集期間：2025年11月28日(金)～2026年2月9日(月)

事前参加登録期間：2026年1月5日(月)～5月29日(金)

後期参加登録期間：2026年6月8日(月)～7月5日(日)

会長：山下 早苗（静岡県立大学看護学部・看護学研究科）

副会長：内藤 美樹（静岡県立こども病院看護部）

実行委員長：鈴木 和香子（静岡県立大学看護学部・看護学研究科）

学術集会  
HPは  
こちら



<https://procomu.jp/jschn2026/>

● 学術集会事務局

静岡県立こども病院看護部  
〒420-8660 静岡県静岡市葵区漆山860

● 運営事務局

株式会社プロコムインターナショナル

〒135-0063 東京都江東区有明三丁目6番地11TFTビル東館9階

電話：03-5520-8821 FAX：03-5520-8820 E-mail：jschn36@procom-i.jp



## 2026年度学術集会に向けて

● 学術集会長 山下 早苗

このたび、日本小児看護学会第36回学術集会を、2026年7月4日(土)と7月5日(日)に、徳川家康公が愛した駿府の地(静岡市)で、静岡県立こども病院看護部と共に開催させていただきます。

こどもを取り巻く保健・医療・福祉・教育の現場は、正解のない「不確か」な局面に多々遭遇しておりますが、こどもにとっての最善を模索し、良い看護を実践・探求しようとする組織には、対話による「組織の調和(ハーモニー)」が存在している様に思います。第36回学術集会を開催するにあたり、「組織づくり」「組織の意思決定」「組織の調和」などの視点からも小児看護の未来を創造したいと考え、メインテーマを「こどもの力を育むチームのHarmony」として企画開催することになりました。

第36回学術集会における企画委員会では、教育機関で教育・研究職に就く看護職と、保健・医療・福祉等の機関で実践に従事する看護職が融合した5つのチームを編成し、「臨床と教育研究機関の協働」「個の力(アイデア)と組織の力の融合(対話)」「サスティナビリティ」をチーム活動のモットーとし、魅力ある学術集会プログラムを作り、おもてなしの心で企画運営しようと鋭意準備を進めております。

基調講演としまして、「看護職の徳と組織のハーモニー」というテーマで、看護倫理学の先人として著名な小西恵美子氏(長野県看護大学名誉教授)にお話をいただきます。また、特別講演(市民公開講座)として、戦国武将の史実のもと、現代に生き抜くヒントを書籍やテレビ等でわかりやすくお伝えしている、皆様もよくご存知の小和田哲男氏(静岡大学名誉教授)に、「徳川家康公のリーダーシップとサスティナビリティ」というテーマでご講演をお願いしました。

教育講演は2題企画しました。日本で唯一、HPS(ホスピタル・プレイ・スペシャリスト)を養成している静岡県立大学短期大学部教授の松平千佳氏に「こどもの遊びの世界」についてご講演いただきます。また、京都大学総長・静岡県立大学学長を歴任され、地震学者として大変著名な尾池和夫氏(京

都大学名誉教授)に「南海トラフ地震と備え」というテーマでお話いただきます。シンポジウムでは社会的弱者に焦点をあてて意見交換をしたいと考え、「遺伝医療」「こどもの貧困」というテーマで企画しました。

さらに、静岡県立こども病院では、平成22年に国内で初めてファシリティドッグを導入し、初代ベイリー、2代目ヨギ、現在3代目のタイが職員として活躍しております。導入に至る背景や歴史、取り組み状況をお伝えしたいと思い、特別企画として「多職種でこども達を支える」を企画しました。学術集会開催に先立ち7月3日(金)には、静岡県立こども病院見学ツアーも企画しております。

年に1度開催される学術集会はネットワークづくりの場であり、知を創造する者同士が集う祭典です。

2026年小暑の侯に、駿府に足を運び、「小児看護の未来」を語り合いませんか。

会場は東静岡駅に隣接しており交通アクセスが良い場所にありますので、風光明媚な駿府の土地や、地元ならではのお食事也十分堪能できると思います。会期開催中、会場にお越しいただいた皆様にお楽しみいただけるような企画も検討しております。

一般演題やテーマセッションは、2025年11月28日(金)から2026年2月9日(月)まで募集いたします。日頃の看護実践や研究活動を是非ともご発表ください。詳しくは第36回学術集会ホームページをご参照ください。

第36回学術集会ホームページ

<https://procomu.jp/jschn2026/>

皆様のご参加を心よりお待ちしております。



一般社団法人日本小児看護学会では、会員様にメールマガジンをお届けしております。学会や研修会のお知らせや、助成金の公募案内など最新情報を配信しております。

ご登録されていない方は、是非下記URLもしくはQRコードより「メールマガジンの配信登録」をお願いいたします。

<https://jschn.or.jp/email-magazine/>



### 広報委員会メンバー

● 委員長：渡邊輝子 ● 委員：新家一輝、西垣佳織、田中美央、鈴木千琴(第65号編集長)